

# 合併本 E on I shi-ta

- 内容
1. みゆきさんに
  2. 詩集 部分の完全性
  3. 幾何数学定理小品集

再び I ON I 森田みゆきさんへのファンレターから 15 年

森田みゆきさん、ちょっこぶとりの君、健康と余裕の人になったみたいですね。私も、もう 64 才、今年は大変でした。定期検診に行ったつもりが、入院生活 2 ヶ月半。オーストリアに、行く計画が、泡と消え。しかし、部分の完全性。いろいろなことは、見えてきています。NHK 様には、今年だけでも、数学の小本を何冊送ったことか、すべて、君宛にすれば、良かったと思います。

私も、もう、数学からはなれ、その成果の、冊子作りに、夢中になりつつあります。

今日は、君に、また、ファンレターを送るために、綴っています。

前の原稿も残っていました。以下に抜粋しています。さきほどおくった、POEM and

GEOMATICS の前文として、これを書き、君と別れた後の自分の、遍歴を君に報告します。

森田美由紀様

1999-3-25 6:30 AM

E b i s u i H i r o t a k a

うれしさ

君が、微笑むとき、僕はうれしい。  
美紀が、哀しいとき、僕も哀しい。  
ある晴れた朝、僕らは、出会う。  
虹の架かった草原で、僕らは出会う。  
僕は、この草原に、ひとりで、  
絵を描いているだろう。  
草原の虹、それが君の名前。  
遠くには、雪を頂いた山々。  
近くには、黄色や、紫や、  
ピンクや、白い花が咲いている。  
やがて、昼  
虹が消え、そよ風になって、  
君は、僕の頬を撫で通り過ぎる。  
優しい、清らかな君。  
いつも清潔な服を着、僕に語りかける。  
今日も、元気な君。  
憂いを見せながら、語るとき、  
それが、その記事は、愁いを帯び、  
微笑みながら、語るとき、  
そのきじは、笑みを浮かべる。  
今日は、どんな表情で、語るのだろう。  
美紀は、元気、だから、僕も元気。  
さあ、草原で、出会った君に、  
一枚の絵を送ろう。  
美紀は、虹になり、そよ風になる。  
そして、今頃は、あどけない表情で、  
すやすやと、まどろんでいるだろう。  
そのそばに、近づき、  
王子様は、そっと唇を寄せる。  
君は、きょとんとして、目覚め、  
僕は、微笑んでいる。  
僕のかわいい美紀。  
今日も、新しい一日が始まる。  
僕らは、また、それぞれの道に行く。  
新しい、微笑みと幸せを求めて。

朝  
風  
や  
小  
鳥  
囀  
る  
春  
木  
立

君  
の  
居  
て

雷  
遠  
し

虹  
か  
か  
る

道  
は  
い  
つ  
し  
か  
う

L o v e i s a s o n g .

美紀、聞いてくれ  
僕は、ひとりで考えている。  
支持関数という関数を用いて、  
卵形の曲面をいかに表すかを。  
以前送った、まりの図もその一つ、  
支持関数を変えると様々な卵形面ができる。  
その卵形面を分類できないかと  
むなしい努力をしている  
一つ、まりのできる場合は詳しくわかった。  
然し、卵形面は無限にある。  
どうすればいいのか。  
どうすれば、数学の神様が微笑んでくれるのか。  
僕は、昼となく夜となく考えようとしている。  
何か結論めいた物が出ないかと焦っている。  
君は、笑うだろう。コンピュータに向かって、  
式を入力し、図の見て、  
”これさっきの図と対して変わらないではないか”と溜息をつく。  
卵形線、卵形面に分類があるのか、どんな特徴を捕まえれば分類できるのか。  
もう2年あまり考えている。少しも進歩がない。  
むなしく時は過ぎ、コンピュータの数だけ増える。  
もう卵形面をやりだして、5台目。  
リンゴの形の違いもたくさんある、それを分類して何になるのかと  
然し、直観的に、何かあると思っている。  
むなしく、時は過ぎる。  
君を意識して早、3年余り、  
君にだけ僕の本心を語ってきた。  
花冷えのする部屋の一日。  
今日も、卵形面を追いかけた、少し、  
そして暮れていく、美紀が待っているテレビの中  
その中にどんな世界があるのだろう。  
コソボの人々の悲惨さ、  
速く平和が来るといい。  
今日も、地球は回り、やがて夕暮れ、  
もう少し、雑用もやらないといけない。  
畑の草は、日に日に生長。  
春と言うのに、卵形面という、荒涼とした世界に、僕は閉じこもっている。  
君の微笑みが、そして、服を見るのが、僕の慰め、  
ああなんと老いた、少年だろう。ね、美紀ちゃん

君は、僕のハート  
然し、僕は君の何だろう  
明るい未来になるように祈る日々  
然し、難民ができ、民族は対立している。  
誰が悪いのか、そこに、ひとりの悪人が居るならば、  
その人は、処罰されるべきである。  
然し、そのひとりが、はっきりしないのだろう。  
みんなの世界、みんなの時間  
そこに、悲劇が生まれる。  
頭に、ぎりがあるように、  
地球のどこかがゆがみ悲劇が生まれている。  
こうして、家におれる幸せ、  
それを大切にしないといけない。  
そう思うが、僕も、未だ眠っている。  
世界に向け、何かを発信して居るつもりでも  
それは、寂しい Inori だけ  
この Inori が、誰かを救っているだろうか  
美由紀さん、  
君も祈ってくれ、人々の幸せを  
自分だけが、幸せでいいはずがない。  
みんなが幸せでなければ、  
ああ、なんと、かよわい Inori であろう。  
ひとりの Inori なんて、何にも成らないのか  
哀しさがこみ上げてくる。  
君が居るから、僕は幸せ。  
先日、世界で一番哀しい人に会い、  
その人と暮らそうとする話があった。  
日本より、他の国に、そんな人が居るだろう。  
悪人が、哀しい人かも知れない。  
人の幸せがわからないから。  
とりとめもなく綴ることは、もうやめねば、そう思うが、  
難民の人々を思うとき、祈らずに入られない。  
” 平和に成れと”  
新しい、幸せな世界が来て、  
みんなが、楽しい思索に耽れるように  
今日という日が、いい日でありますように！

## 小旅行

1999-4-16-18

朝、JRに乗り、小旅行に出た。

目的ははっきりしない。

筑波大の先生に会うそれが目的

会って話をして、何かが生まれることを期待して

然し、今回も大したことは生まれなかった

僕は、ぶくと成り、研修センターで、ひとり、

寂しく寝た。然し、浅い眠り

もう、旅行は無理かな？

そんな思いを抱かずにはおれなかった。

に つぎの朝5時頃か、食事をしようと、コンビニへ行った。

サンドイッチとコーヒー、

そして少し寝た。

昨日ひとりで、風呂に入り、体重を量ると、

1キロも増えていた。

新幹線線で4時間もじっとしていて、おまけに、

早く待ち合わせば場所に着き、うどんを、

間食に食べたせいだろう。

ぶくは、何を求めて自前で、

こんなところまで来るのだろうと、僕は思う。

最近では、僕がぶくで、ぶくが僕のようになっている。

ぶくは、妄想家で、宇宙平和を夢見、超能力を、科学的に

コントロールできないかと、夢見ている夢想家。

ぶくは、4次元空間による、ワープや、未来の人類の生活が、

どうあるべきかよく考える。

僕は、理性的に、ぶくを見張って、ぶくが、暴走しないように

押さえる役目、

いや、ぶくと僕の違いはよくわからない。

雑文を書くのがぶくで、論文を書くのが僕、

この境が、最近少しなくなってきた。

困ったことだ。

君恋し、笑顔さわやか、春の風

なき父の 笑顔の中の 寂しさを

この頃とみに ぶくは覚える。

君の居て 僕が居るよな

この文に ぶくの哀しさ 僕は詩わむ

花びらの 1輪浮きし 小川には

小ブナ寂しく ひとりおよがむ

流れゆく 君のニュースに 聞き惚れし

いつしか君の 愛がみのらむ

19日

みゆきさん

風邪ひき休む

今日の日も

僕は、テレビに

君を求めむ

8時15分前に

行きたかった会い

君が寂しいとき僕も寂しい  
涙ながらに歩く道  
ゆくも帰るも峠を越えて  
今日も達者な母さん居たよ  
鈴虫鳴いて線香花火  
手にする君の袂が揺れる  
みんな元気で待ってる君を  
しゃべる言葉に笑みこぼれ  
明るい話題今日はないけど  
居る苦しさかたらむ君に  
四十九才今日は誕生  
君を見たくて待ってたけれど  
居ない寂しさひとり味わう  
元気を出して明日は出てよ  
綴る言葉ももどかしく  
元気な姿思いだし  
こちらも何とか暮らす毎日  
いつでもいいから  
ちやかす手紙を  
気張らすために  
書いてみなさい  
待ってるからね

740-0012

岩国市元町4丁目 12-10

蛭子井博孝

Tel 0827-22-2573

Fax 0827-22-3305

人恋し 人を抱きたし ひとり行く  
道に小さな スミレ創作

行く道と帰る道との峠かな

# 詩集 部分の完全性

二人の女性

高鳴る鼓動

五葉松著

部分は、完全であるが、全体は、淡い存在  
部分が、全体と相似の時代は終わり、  
部分が、完全なものとして  
存在し続けている

ことのは。 << 2007年8月 >> by ishinositahikari

連歌 by 五葉松

2007年8月09日

夏。

あなたに

会いたい

ちょっと

せつない

真夏の夜の夢。

夏

きみに

会いたい

ちょっと

まぶしい

真夏の朝の光

-----  
2007年8月08日

立秋。

虫の音が

聞こえてきそうな

涼しさに

静かに

立秋

セミの音が

聞こえている

暑さに

やかましく



静かに

そして静かに

秋立ちぬ。

終わりを告げようと

-----  
2007年8月07日

夕立。

夕立

夕立に

夕立に

見知らぬ人との

知己と出会い

雨宿り

雨宿り

思わぬ会話に

いつもの話

雨も忘れて。

雨がもう上がる

-----  
2007年8月06日

洗車。

洗車

打ち水に

ホースから

虹の

ほとぼしり

かけらが

つやを増す

見え隠れ。

ボディ

-----  
2007年8月05日

蚊取り線香。

蚊取り線香

線香の

線香の

香りに

煙が

うかぶ

宙に消えゆき

里の夏。

里も夏

-----  
2007年8月04日

新聞。

新聞

新聞の

新聞受けが

配達

ことりとなった

目覚まし

いつものように

いつものように。

玄関を開ける

-----  
2007年8月03日

夏空。

夏空

ヒマワリが

ひまわりが

お日様

風に揺れ

恋しと

愛らしく

空を見て。

お辞儀をしてる

-----  
2007年8月02日

遅い梅雨明け。

遅い梅雨明け

朝顔の

キュウリの

花と種とが

花と実が

同居する

同居する

葉月に入りて

8月になり

梅雨明けて。

梅雨明けて

-----  
2007年8月01日

ついたち。

ついたち

暑さも

暑さも

これから

これから

本番なのに

だのにもう

暦の秋は

こよみの秋が

もうすぐそこに。

近づいている

-----  
2007年8月29日

ことのは

空をながめて。

空を眺めて

雨が運びし

雨をみて

贈り物

涼しさを

涼風

運ぶ空に

秋をふくませて。

秋の感謝

2007年8月28日

旬のもの

旬のもの。

サンマに	ニガウリ
秋茄子	秋なす
ススキを飾り	梨
お酒がつけば	輪切りにして
言うことなし。	水分最高

2007年8月27日

秋刀魚 七輪で	秋刀魚 ガスコンロで
うちわ パタパタ	煙も出ず
つまみにおかずに	おいしくできあがり
サンマの季節	大根おろし
もうそこに。	醤油であがり

2007年8月26日

8月最後の日曜日。 思い出を	八月最後の日曜日 空っぽで
いっぱい作った	過ぎ去った
夏休み	夏休み
あのころに	この頃、
戻ってみたいな	元気に過ごすだけ

もう一度。                      二度とないのに

2007年8月25日

星空。                      星空  
久しぶりに星を見る              2年前、  
  
蚊取り線香に火をともし              嘘のように  
  
ベランダにチョココンと              天体望遠鏡で  
座って一人きり  
  
いなかの空には及ばないけど              毎日毎日空を眺めた  
  
どうしてどうして    なかなかのもの              きれいで、  
  
空を眺めることってあんまりないよね              オリオン  
  
時々ボーッとしたくなる              金星  
  
耳ざわりな音もなく              土星  
  
いろんな想いもとんでいく              みんな  
  
一人っきりの    ロマン飛行。              夢を運んでくれた

2007年8月24日

残暑。                      残暑  
    秋の訪れ              赤とんぼ  
  
ハギの花                      サツマイモ

蕾のまま

ああ、

立ち止まり。

芋トンボ

2007年8月23日

処暑。

処暑

明け方の風

処暑って

少しだけ

初めて聞く

涼をはこぶか

暑い暑い

処暑をむかえて。

猛暑であるが

2007年8月22日

思い出。

思い出

手花火の

線香花火

煙

しゅしゅしゅ

流れて

閉じこめたい

夏がゆく。

夏の思い出

2007年8月21日

日差し。  
傘立てに

日差し  
傘立ての

雨傘

雨傘とって

ポツンと

夕立の中

待ちぼうけ。

歩く

2007年8月20日

草取り。  
コオロギの

草取り  
コオロギや、

あと追いかけて

どこで鳴くのか

草むしり。

草もぐれ

2007年8月19日

青色。  
夏草に

青色  
夏草に

おおわれし

囲まれても、

庭先に

サツマイモ、

小さく 可憐な

たくましく

ツユクサの咲く。

育つ。

2007年8月18日

秋の気配。  
秋きぬと

秋の気配  
秋きぬと

目にはさやかに見えねども 目にはさやかに見えねども

風の音にぞ

なおあまりある

おどろかれぬる (古今和歌集) 夏の面影

2007年8月17日

暑気払い。  
風鈴の

暑気払い  
うちわ

音も

金魚鉢

けだるくて

打ち水

残暑あり。

なお残暑あり

\* Short Love Poems \* by Mie

返歌

by 五葉松

- BLOG で書いていた三行詩をこちらに移しました -

傷つくことへの自己防衛と

僕の心は、傷つき

切なさからの逃避を覚えた

癒しから

わたしのこころ

君を求めた

いつかあなたも

僕は、

私の前から消え去ってしまうでしょう

君のそばにいる



溶ける雪のように

まるで幼子のように

あの頃二人で夢見た未来の続きを

あの頃は、何も知らないで

もう一度繋げることを願うのは

夢中になり

それもまた 儂い夢のまた夢

君を夢見た

しらじら夜が明け

夜明け前

あなたの腕の中で見た 有り明けの月

君の寝顔を

今夜も心に映り あなた思う夜

そっとのぞき込んだ

私の心を求めて 深く

深い心を のぞき

私に愛を求めて 強く

強い愛を 感じ

私の身体を求めて 激しく

激しい息づかいを 受け止めた

私の愛の全てを貴方に捧げるから

僕は、君の愛を感じ

貴方は少しだけ ほんの少しだけ

君を長く長く

あなたの時間を私のために下さい

思い続けた

私の心は過去の中で生きてるから

僕の心は、今も生きている

あなたの心が戻るなら

君の心が、変わらなければ

お願い 戻ってきて

いつでも、そばにいる

伝えられない想い もどかしくて

もどかしくて、もどかしくて

ままならない約束 はがゆくて

約束もできない

空回りの恋心

お互いの行き違いの心道

あなたが 私を抱くのは

僕が君を抱くのは

私が あなたに抱かれないのは

僕が君を抱きたいのは

愛情 それとも 愛欲？

君がかわいいから

優しくしないで

優しい君

冷たくしないで

冷たい君

難しい恋心

難しい君の心

貴方へと歩き出したところ

一緒に歩もう

もう戻れない 戻らない

ずっと先まで

先は見たくない 知りたくない

希望の見えるところまで

貴方の胸の鼓動を聞かせて

君の胸の鼓動が聞こえる

貴方の温もりを感じさせて

君の肌のぬくもりが感じられる

もっと強く強く身体を引き寄せて

離さないよ

雑踏の中で寂しさ紛らわしても

雑踏の中で思い出す

夜の静寂が

静寂の日々

孤独を掻きたてる

もう孤独はない

このまま

このまま

あなたの愛に溺れ

君と結ばれ

あなたの心に沈みたい

君の心をつかみたい

思い出を重ね

思い出を重ね

身体を重ね

体を重ね

二人の先にあるものは、、、

ふたりの先にあるものは希望

会いたいと思う気持ち

会いたい気持ちより

どうしたって

思う気持ちが

誤魔化せない 隠せない

隠せない、

淋しさを埋め合うように繋いだ手

寂しさを紛らわすためつないだ心

温め合うと

暖め合うと

今度は辛すぎて、、、

今度は、楽しくなった

あなたと私の

君と僕との

恋の綱引き

愛の綱引き

先に手を離すのは、、、

いつまでの続けよう

こころの中にひそむ

心の中に潜む

ジェラシーの中の

愛情の中に

隠せない深い愛、、、

隠せない深い友情

恋は突然舞い降りて

心は突然変わり

たった1秒で恋に落ちたとしても

たった一秒で恋を忘れ

一晩で忘れるような恋ならしない

ひと段で忘れない友情になる

あなたが私の傍にいる

君が、遠く離れ

あなたに寄り添える私がいる

君に思いをはせる僕がいる

ただ、それだけが 幸せ

ただ、それだけが 人生

雪が溶けるように

雪が解けるように

あなたもいつか

きみもいつか

消えるのですか？

判るときがくるだろう

あなたの手に

君の手を

触れてはとける

包んで歩く

雪になりたい

手袋になりたい

目覚めたその瞬間から

目覚めた瞬間から

貴方で始まり

君で始まり

一日があなたで終わってゆく

君で終わってゆく

貴方の中の私は

君の中の僕は

もう消えたのでしょうか	今も生きているのでしょうか
私の中のあなたは まだ消えない	僕の中の君と同じように
あなたと 遠く離れても	君と遠く離れていても
私の愛は	僕の友情と愛は
永遠に眠らない	いつまでも目覚めている
白でもなく 黒でもなく	白でも黒でもなく
愛を失った ころは	愛を感じる心は
いつも 中間色	いつもバラ色

## 高鳴る鼓動 五葉松

キンモクセイをふと見たら小鳥の巣があった。  
小さな命の営みを大事にしようと思った。  
この心音という小さな冊子、君に出逢い、君  
と別れ、その時々、聞いた自分の心音、恥  
ずかしくもあり、希望にも満ち、歩んだ数年  
を次の詩集として、君に送りたい

目次 木立

mie

数学

雨が怒って

高鳴る鼓動

旅

20年の歳月

恥じらい

君

母

灯り

行く年来る年

## 木立

冬 白一面  
そんな日が好き  
不思議である。  
瀬戸内生まれには  
白き雪が。

僕の心に  
君がいる  
君が去ろうと  
僕の心に

君がいる

喜びが  
きみともに  
去っていった感じ  
ああ、又巡り会いたい  
心の通う人

朝起きて  
ぼやあーとする  
何か、集中しない  
君が去って  
いったからか

今日は、  
心が弾む  
仕事のできた  
恋のできた。  
うれしさ一杯

美しい画面  
それは我らを  
陶酔させる  
一枚一枚

貼り付ける楽しさ

それは、君が  
丁寧に  
化粧する様  
いや  
身繕いする様

嗚呼、花の衣を  
脱ぎ、葉を装い  
そして、また  
錦にして脱ぐ  
季節は巡り

やがて冬  
裸のまま  
たたずみ眠る  
雪が舞い  
雪をまとう

君の名は  
木立  
じっとたたずみ  
春の訪れを感じ



つぼみを育む

今日をまつ町  
明るく照らす  
笑顔見たくて  
雪町に行きたい  
君を求めて

Mie

一休み  
ああ、アドバイス  
いやいや  
自分で  
おやり

そうだね。  
そうだ、  
そうだろう。  
そうして  
そうそう。

まだまだ  
先は、長い  
では  
これまで  
有り難う

夜空の下で  
君を抱きたい  
歌にはできるが  
どうしようもない  
遠く離れて

思いは同じなのか  
つきあってくれるのか  
それさえ謎  
ゆめゆめゆめ  
何かが気に掛かる

きみの h p が  
僕に突き刺さった  
自分にはできない  
そして、つづった  
何回かの MAIL

届いているのか  
もどかしい  
一方通行の思い  
もどかしい  
思い

## 数学

台風一過  
夕焼け雲と  
青い空の  
コントラストに  
魅了される

そして散歩へ  
空を眺めながら  
西に向かう  
反転の一般式が

頭をよぎる

そろそろ  
引き返す場所  
あたりはもう暗い  
信号の青と赤が  
球のように浮かぶ

まだ、一般式を  
考えている  
3乗数4乗数  
限りなく  
空間が広がる  
可愛い子が  
現れ  
思わず  
好き好き好きで大好きでを  
口ずさむ

楽しい散歩  
ここで、電話  
何を想っていたのか  
明日は、天気だろう  
虫の音が涼しい

太陽の沈む頃  
宿に着いた  
この日の疲れが  
今夜のまどろみで  
明日の希望へと変わった。

## 雨が怒って

雨の暗き庭  
君の顔が笑う  
ああ七変化  
楽しさを超え  
うつむく自分

明るい太陽  
やがてくるあけぼの  
橙色の中の黄金  
空から山から

心に咲いた夢

雨が怒って  
傘をたたいた  
パチパチパチ  
心がキューと  
痛んだ

海猫が舞う  
帰らぬ日々  
夏の怒濤の  
日御碕灯台  
君と佇む  
夢が覚め  
振り返れば  
もう何もない  
誰もいない  
一筋の雲が流れている

生きている  
そこに、  
大きな野望  
今は、ただ  
沈黙するだけ

## 高鳴る鼓動

初めて感じた  
色目  
しばし見つめ  
目をそらす  
高鳴る鼓動

君が見せる  
色目  
受け止めている  
つもり

軽く軽く

土手に  
ぼつぼつ  
つくしんぼ  
子犬るんるん  
ご満悦

春は七色  
スミレ草  
花は盛りと  
浮き上がる  
出会い求めて

## 旅

飛べ  
勇気を持って  
空は高く  
海は青く  
異国の地へ

明るい人  
暗い人  
もう  
帰れない



## 男女の絆

傘を差す  
手元が  
いとおいしい  
二人でぬれた  
長い道

笑え  
不細工なら  
泣け  
怖いなら  
君は自由な人

指の運動  
明るい画面  
悲しさが  
伝わらない  
ハイテク・メール

心  
うきうき  
春が過ぎ  
明るいビーチ  
夏の海

人々の  
やさしさに  
われ  
戸惑いて  
歌う

楽しみと  
悲しみが  
瞬時をかける  
明日は誕生日  
一人旅

## 20年の歳月

よい子  
悪い子  
誰がいう  
大人はみんな  
二丁面

楽しさ  
ただ寂しさ  
いつまでも  
忘れられない

## 20年の歳月

あなたという人  
君という人  
みんな  
僕の心の奥で  
笑っている僕に

ああ  
今日は歌会  
揺れる帰りの  
歌心  
湧いてくる思い

擲揄  
いやみ  
皮肉  
みんなみんな  
恨みっこなしよ

愛した  
愛する  
愛し合う  
みんな手から  
こぼれる水

貝掘り  
アサリ  
シジミ  
いや蛤  
ああ、足がしびれる

## 恥じらい

進め  
止れ  
いや  
歩め  
恋路

乙女の  
恥じらい

いや赤面  
老いた私も  
耳が赤い

人々の  
明るい顔  
それがみたくて  
やってきた  
淋しい町から

雨が降り  
相合い傘が  
気にかかる  
二人はずっと  
平行線

君

ずぼん  
ドレス  
それとも  
もんぺ  
みんな似合う君

自己宣伝  
今日少し

明日はもっと  
みんなに伝えたい  
この歌を

お尻が  
くつつく  
満員電車  
ああ後ろに  
誰がいるのか

マスクと眼帯  
眼やみ女に  
風邪引き男  
そんな昔が  
なつかしい

荷物だな  
忘れ物一つ  
ああ これ  
どこまで  
行くのか

夢と絶望  
2つ並んで  
座る

夜汽車は、  
走る

話だけ  
肩の温もりだけ  
そんな君がかわいい  
子猫のように  
じゃれはしないが

頭から  
足の先まで  
合格  
そんな女に  
なかなか出会わない

窓ガラス  
明るい車内  
暗い外  
窓に映る  
可愛い子



母

山川海  
みんな幸せ  
きれいにしよう  
自然の  
めぐみ

カレー  
3人前

玉ねぎ切って  
4人前  
もうできたかねえ

頭の中で  
ごちそうを  
食べている  
ルート2は、  
おいしい

疲れても  
疲れても  
ある仕事  
野菜くず  
埋める穴

雲海の上  
青き空  
佇む山頂  
のどを潤す  
一杯の水

歓声に  
ゆれる白球  
目にしみる

涙涙の  
大逆転

## 真っ白なノート

季節は巡り  
心の傷が  
また痛む  
愛をなくし、  
愛に飢えた

山が呼んでいる。  
青い空、  
流れる白い雲  
今日も汗をかき  
一步一步

あれから  
何年もたった  
というのに  
あのときの巡り会い  
今も、忘れられない

今日から、  
新学期、

心が躍った、  
あの日その日  
真っ白なノート

## 灯り

裸がみたい  
ああ  
かくしている  
壁の向こうにいる  
君がみたい

銭湯に行った帰り  
キリンレモンを買う  
ああ、ぼくが、  
わざと  
消さずにいた灯り

明るさ  
楽しさ  
ほがらかさ  
みんなみんな  
笑みをいただく

春、笑い、  
秋、寂しい  
情熱を持っていた  
あの夏が恋しい  
枯れ葉の音を聞く今は冬

**行く年来る年**

顔に顔に  
ゆく年  
笑み笑い  
にやりにんまり  
にっこりと

春の嵐  
失った青春  
よみがえる  
夢と愛  
再び町へ

行く年の  
思いを込めた  
書き物を  
焼いて  
来る年を待つ

アップ  
ダウン  
行く年  
来る年  
アップ  
花が咲いた  
夢が見えた  
行く年  
多くのひとが  
心の星座に

君と会った

うれしかった  
時が流れた  
再会できた  
未来の僕の星

浜辺  
自分の足跡をみて  
寂しさが消えた  
波と遊び  
君がよみがえった

飛んだ空で  
若い娘に  
話しかけた  
笑ってくれた  
ああ老いた少年

飯がきた  
海の家  
浜辺を眺め  
一人で思索  
至福の時

小春日に

思い出す  
クリームグリーン  
木漏れ日の日々  
ブナ林

行く年も  
仕事は、7分  
残る仕事が  
楽しみ5分  
十二分な年

窓ガラス  
明るい車内  
にぎやかな  
乙女たち  
嫌みが1つもない

朝時計が  
チクタク  
デンデン  
間違いなく  
時が流れている

何が大切か



自分が正しいと思うことか、  
自分が間違っていると思うことか、  
自問自答しながら  
生きて行く以外にない。

### あとかき

今年一年を振り返り、何をしたか考えている。

正月は、保護室で、食事  
そして、ケースワーカーからの年賀状、うれ  
しくてうれしくて  
そして、想わぬ **tomo** の面会、恥ずかしくて恥  
ずかしくて

そして、母と姉、ごめんね  
 ノートが、買ったのがうれしく、英語で卵形  
 線、  
 そして、黄金比とシルバー比のハイブリッド  
 をとく。  
 ベッドから落ち、背中、圧迫骨折  
 生きていることのうれしさ、それだけで、何  
 もいらぬ。  
 3月4日想わぬ退院  
 これから、4、5時間睡眠で、コルセットの  
 生活をしながら、中国の国際会議まで、必死  
 EDwin との交流 Renata との再会 Maria 出逢  
 い  
 ひとりで、ぼやっと  
 素数と遊び一億番目の素数 2 0 3 8 0 7 4 7  
 4 3 を得てコンピューターを信頼  
 10-12 OCNcafe HP 塾を開くことに必死  
 夜空との出逢い、美智子とのデート  
 白い調べを聞き、虹の国を見、女性との交流  
 南十字星の花、天体ショー、懐かしの詩  
 そして、剛との再会、三円4球の定理発見  
 そして、1 3 7 と遊び、再び数の不思議を  
 思いがけないクリスマスプレゼント  
 金銀比の2次元が畳み比  
 哀しみの津波

災いで明け、災いで閉じようとする中  
美しい、様々なメロディに支えられてきた  
この一年、生きてこられたことに感謝

五葉松

発行日 2005/1/1

発行 卵形線研究センター

著者 五葉松

発行者 蛭子井博孝

発行所 740-0012 岩国市元町4丁目12-10

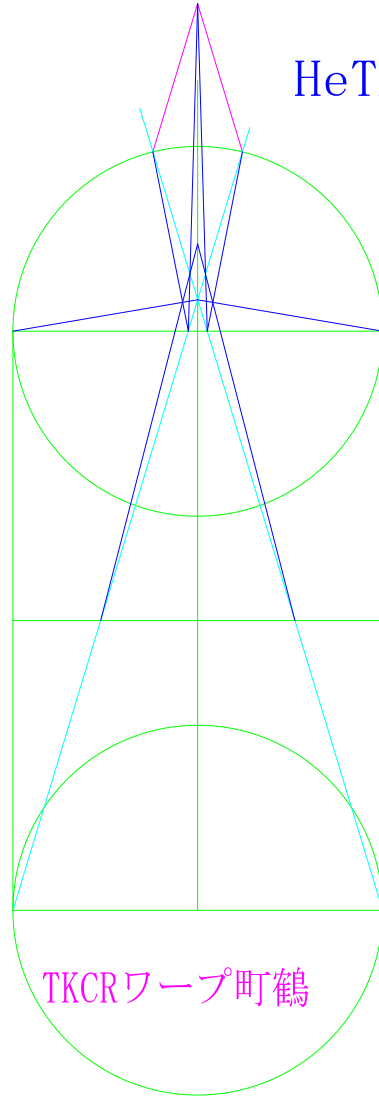
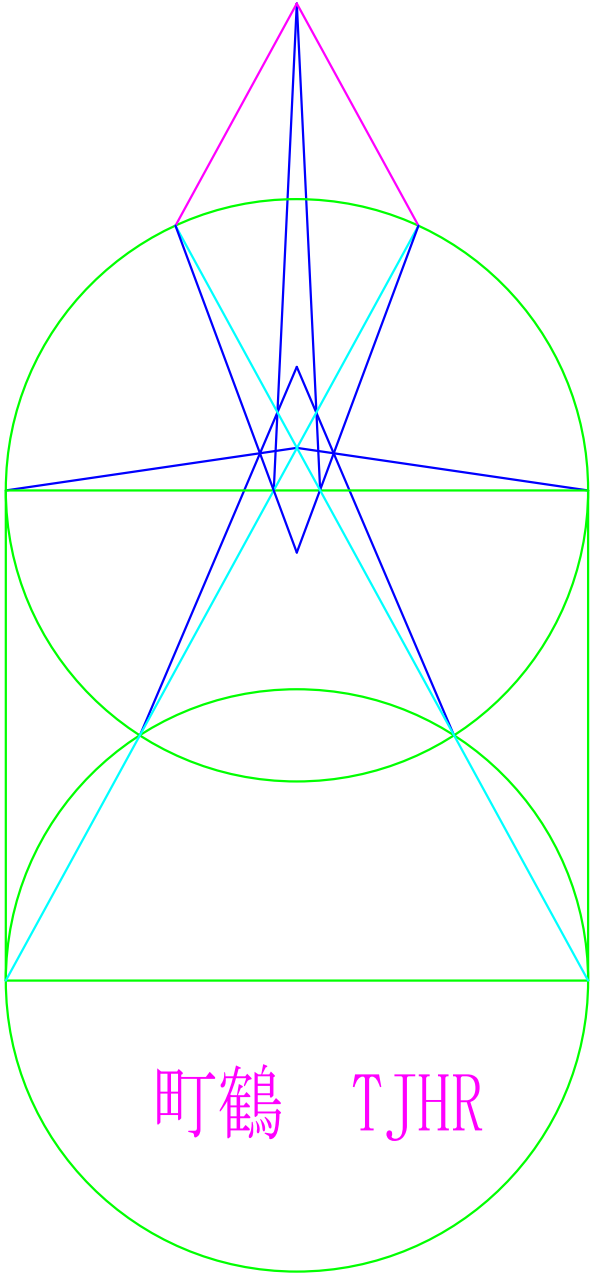
# 幾何数学定理小品定理集

蛭子井博孝編著

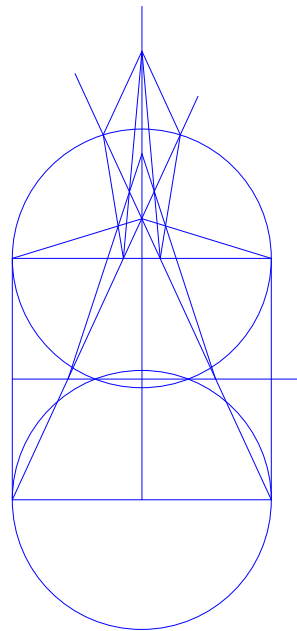


女流数学者 Olga に捧げる

HeTNK-08-1



蛭子井博孝60

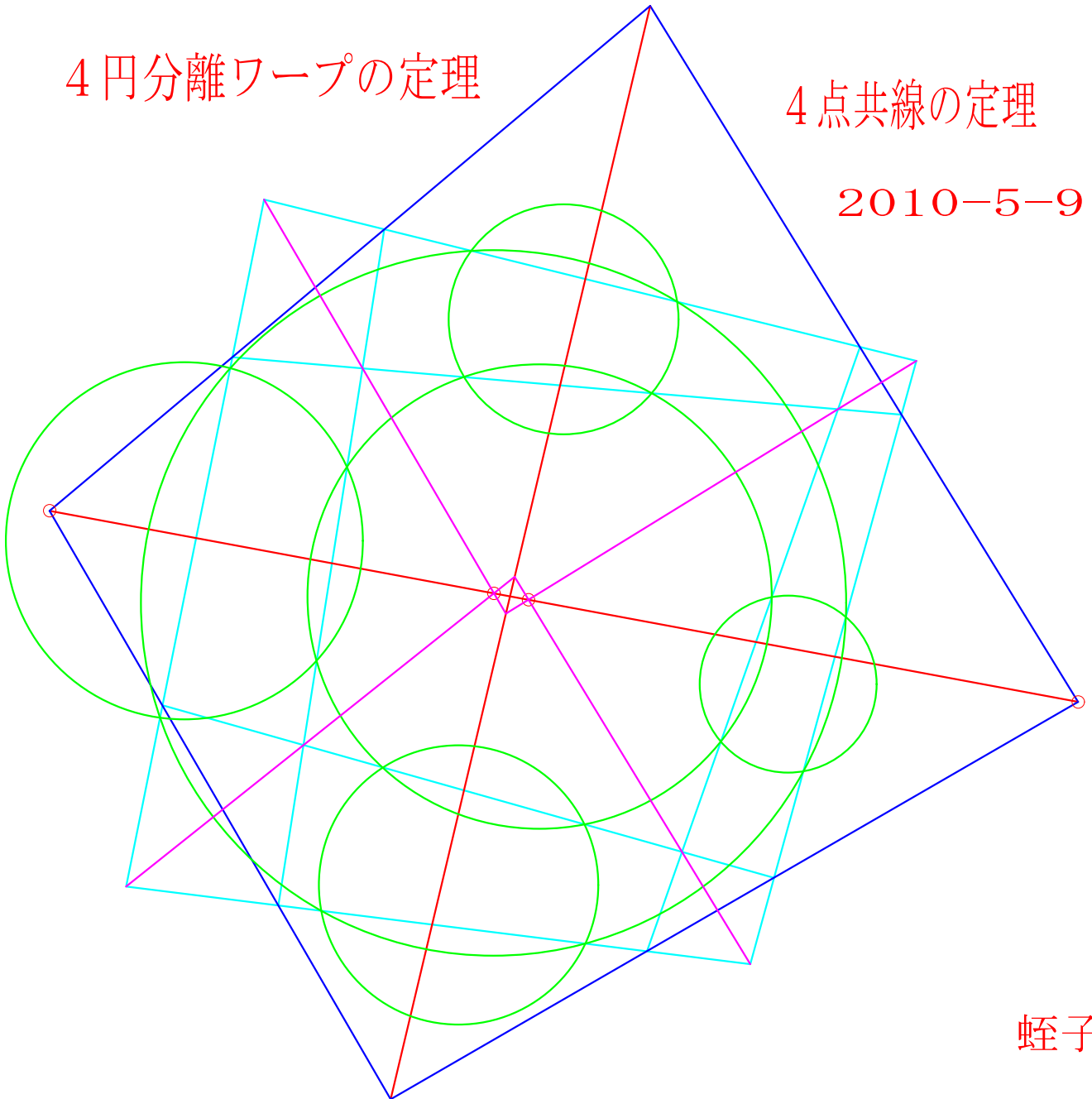


HeTNK-08-2

4円分離ワープの定理

4点共線の定理

2010-5-9

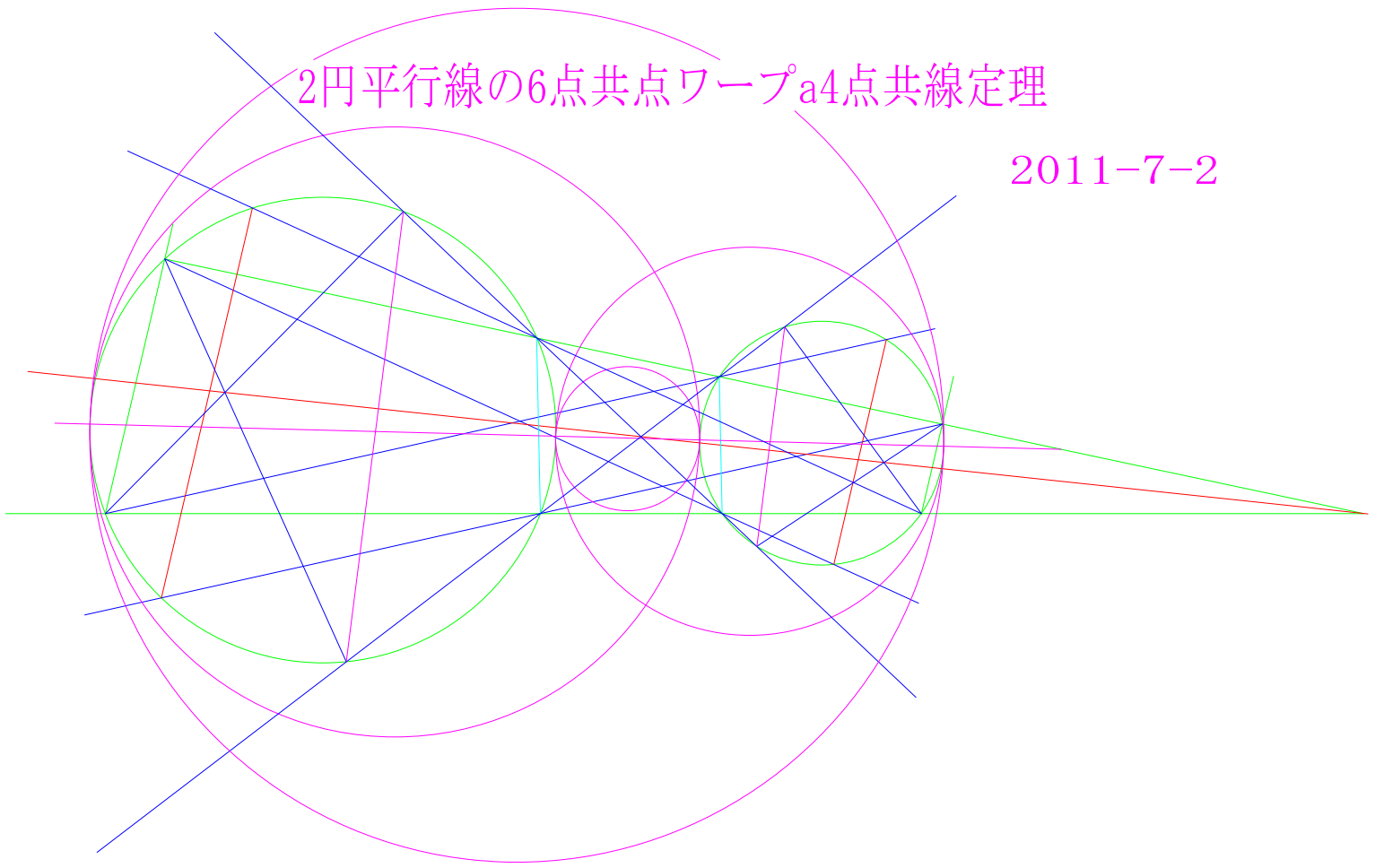


蛭子井博

HeTNK-08-3

2円平行線の6点共点ワープa4点共線定理

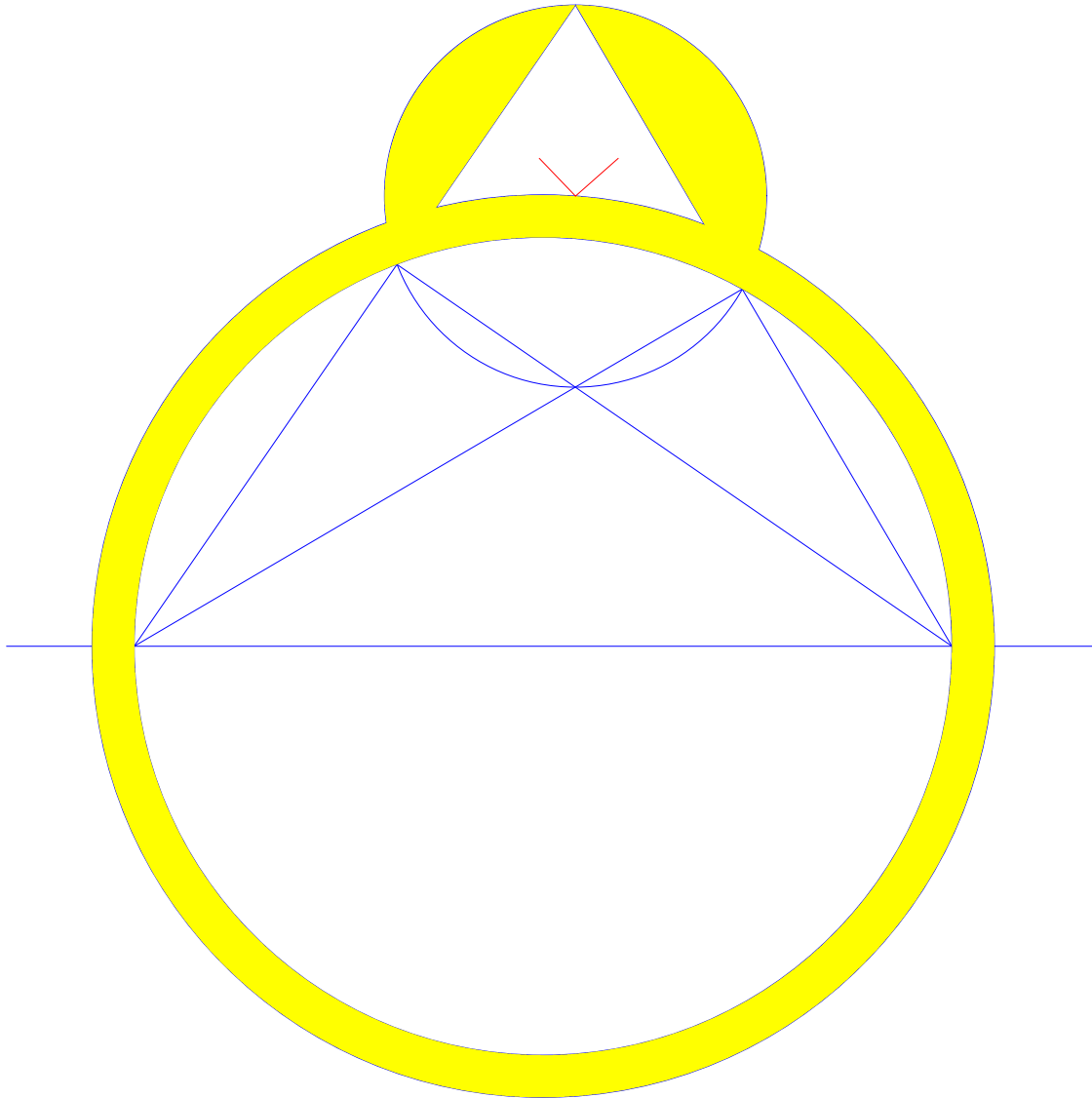
2011-7-2



蛭子井博孝

HeTNK-08-4

# 金環蝕、ダイヤモンドリングのダイアグラム



## シンプルな直径円定理

2009-7-22

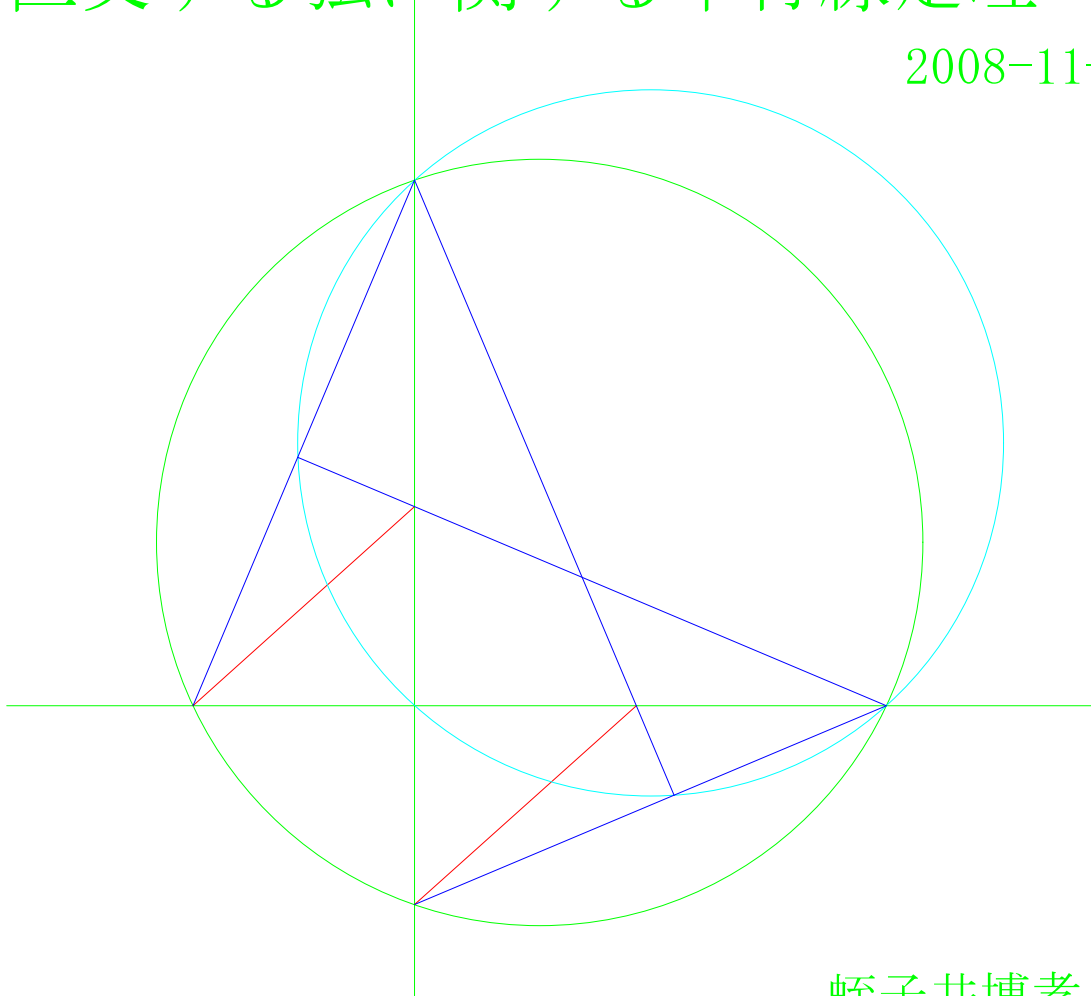
蛭子井博孝



HeTNK-08-5

# 直交する弦に関する平行線定理

2008-11-20

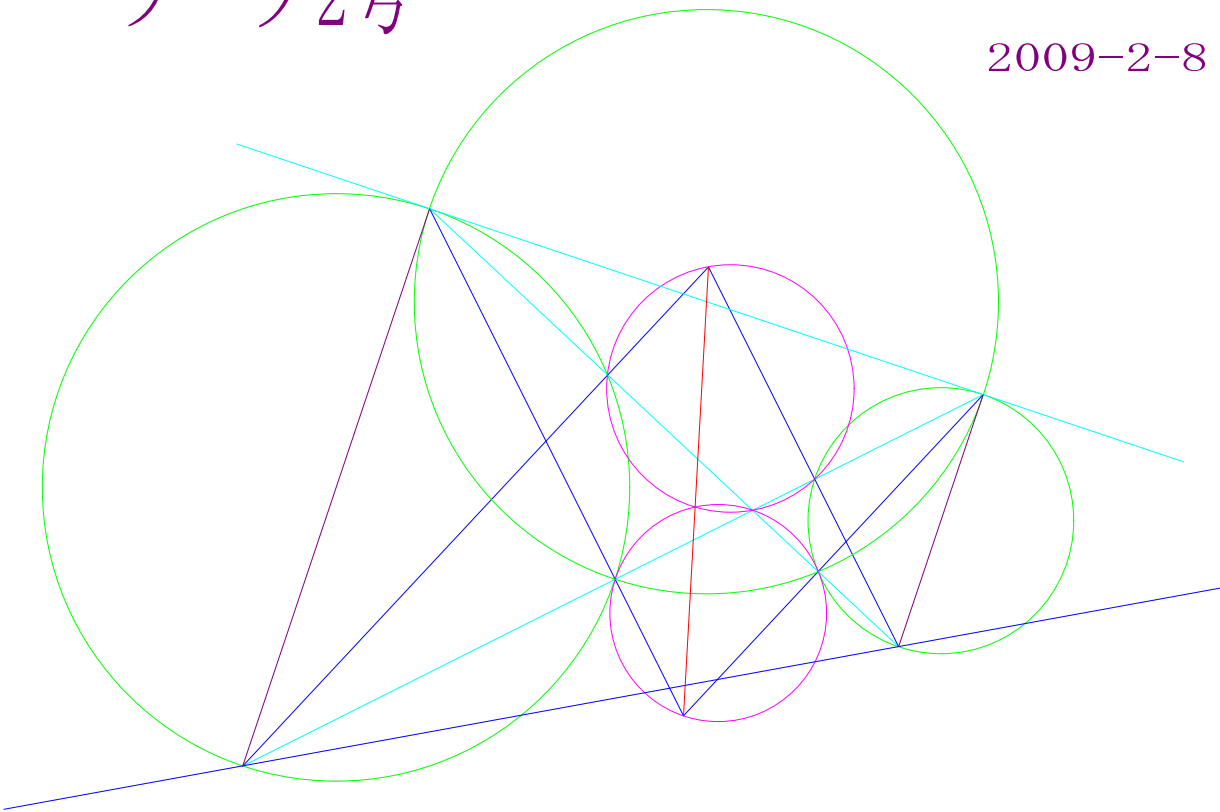


蛭子井博孝

HeTNK-08-6

ワープ<sup>o</sup>2号

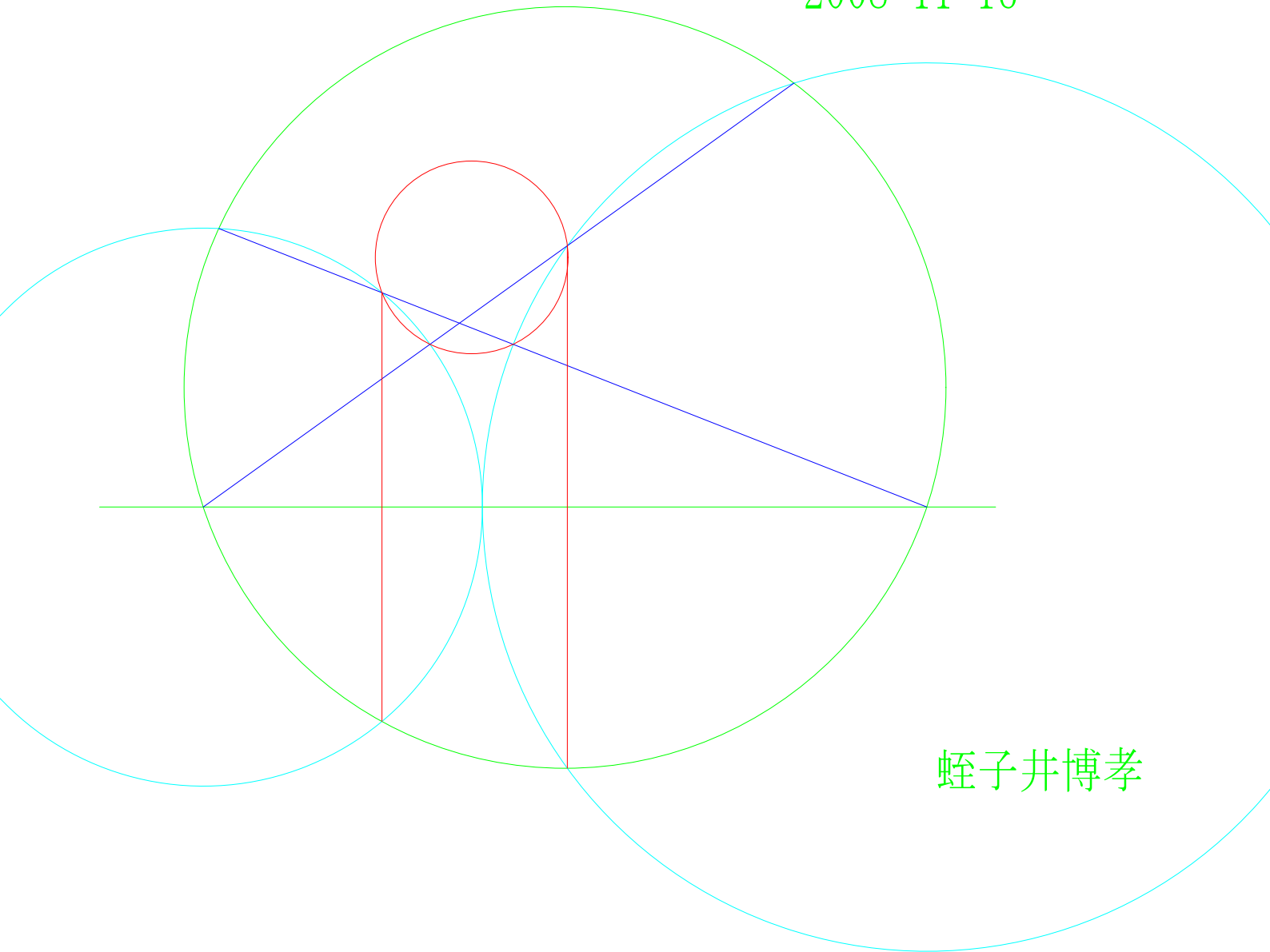
2009-2-8



蛭子井博孝

HeTNK-08-7

2008-11-16

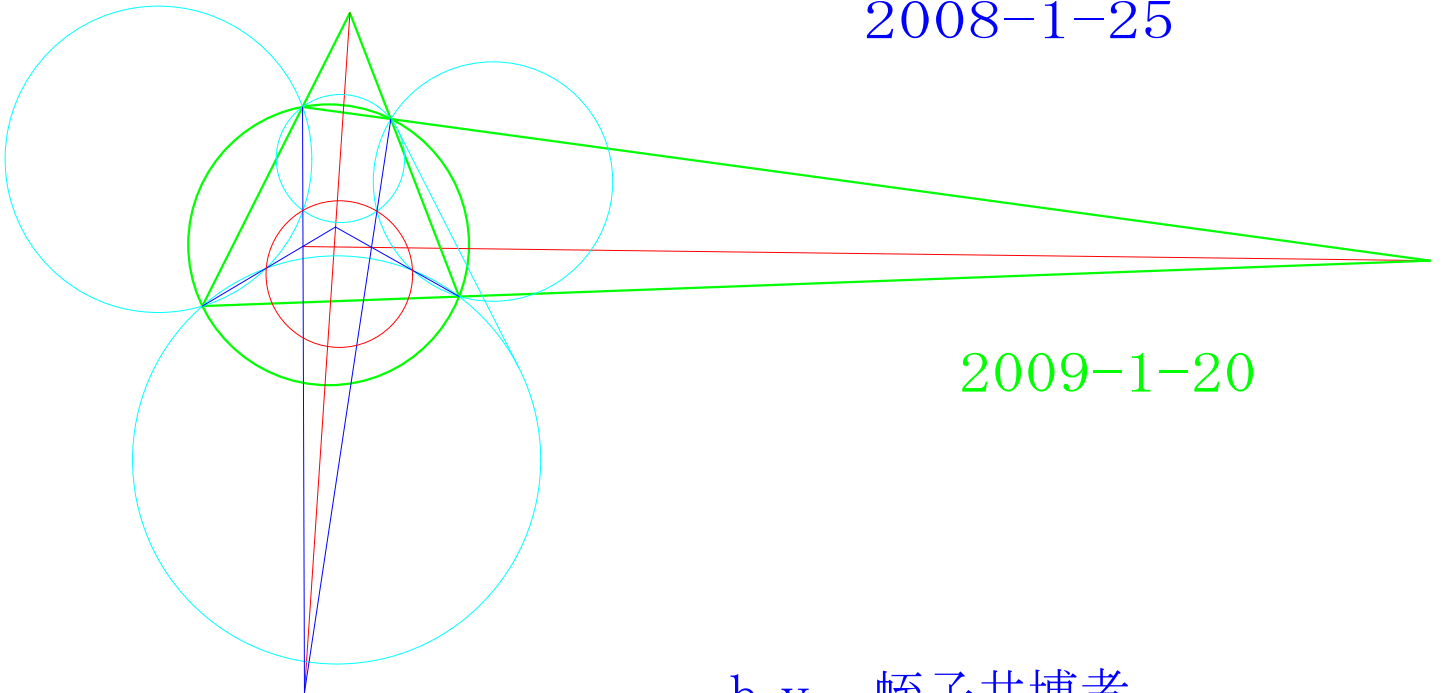


蛭子井博孝

HeTNK-08-8

菜の花バラ根軸の定理

2008-1-25



2009-1-20

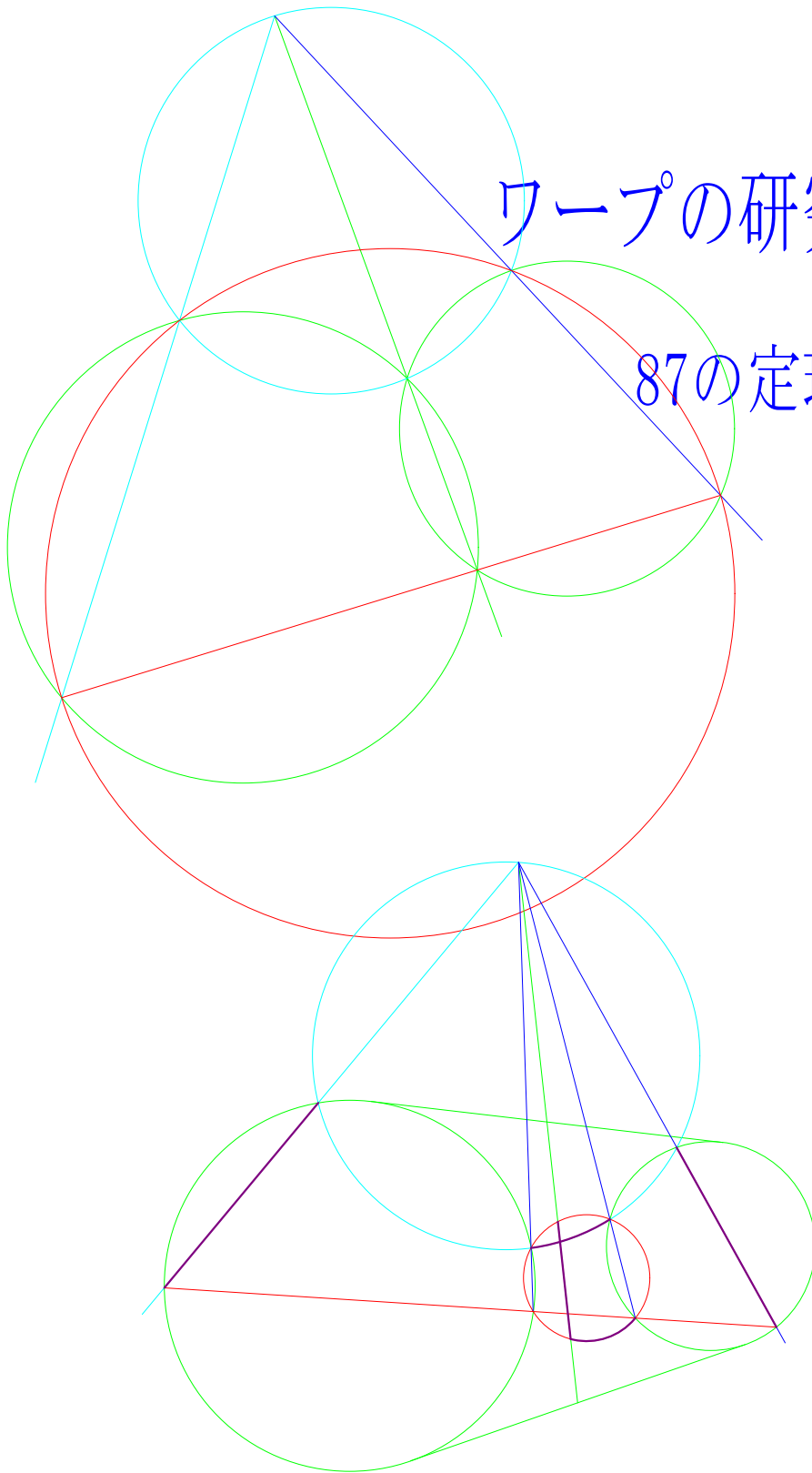
b y 蛭子井博孝

HeTNK-08-9

# ワープの研究原図 1

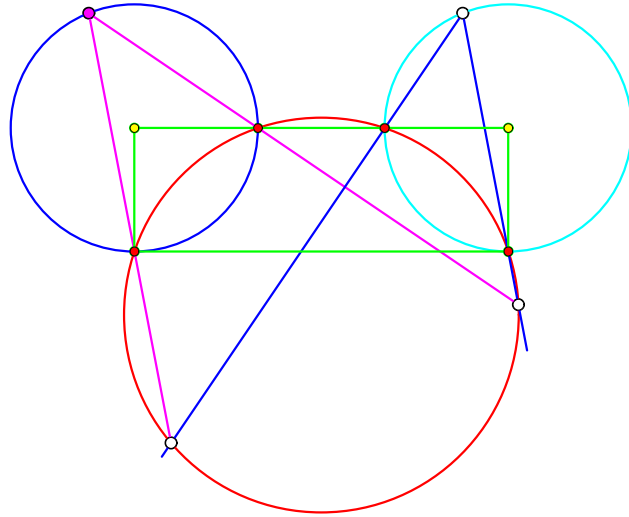
87の定理

2009-2-17

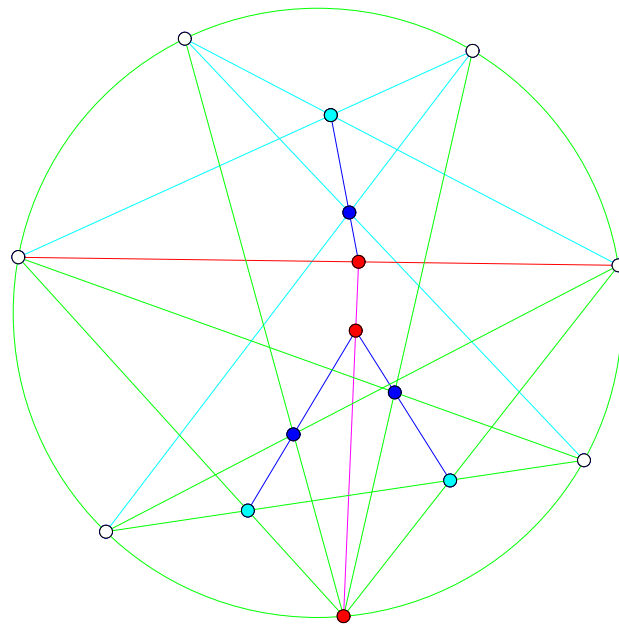


蛭子井博孝

HeTNK-08-10



円上7角形の定理 (HEX60) 2008-7-22



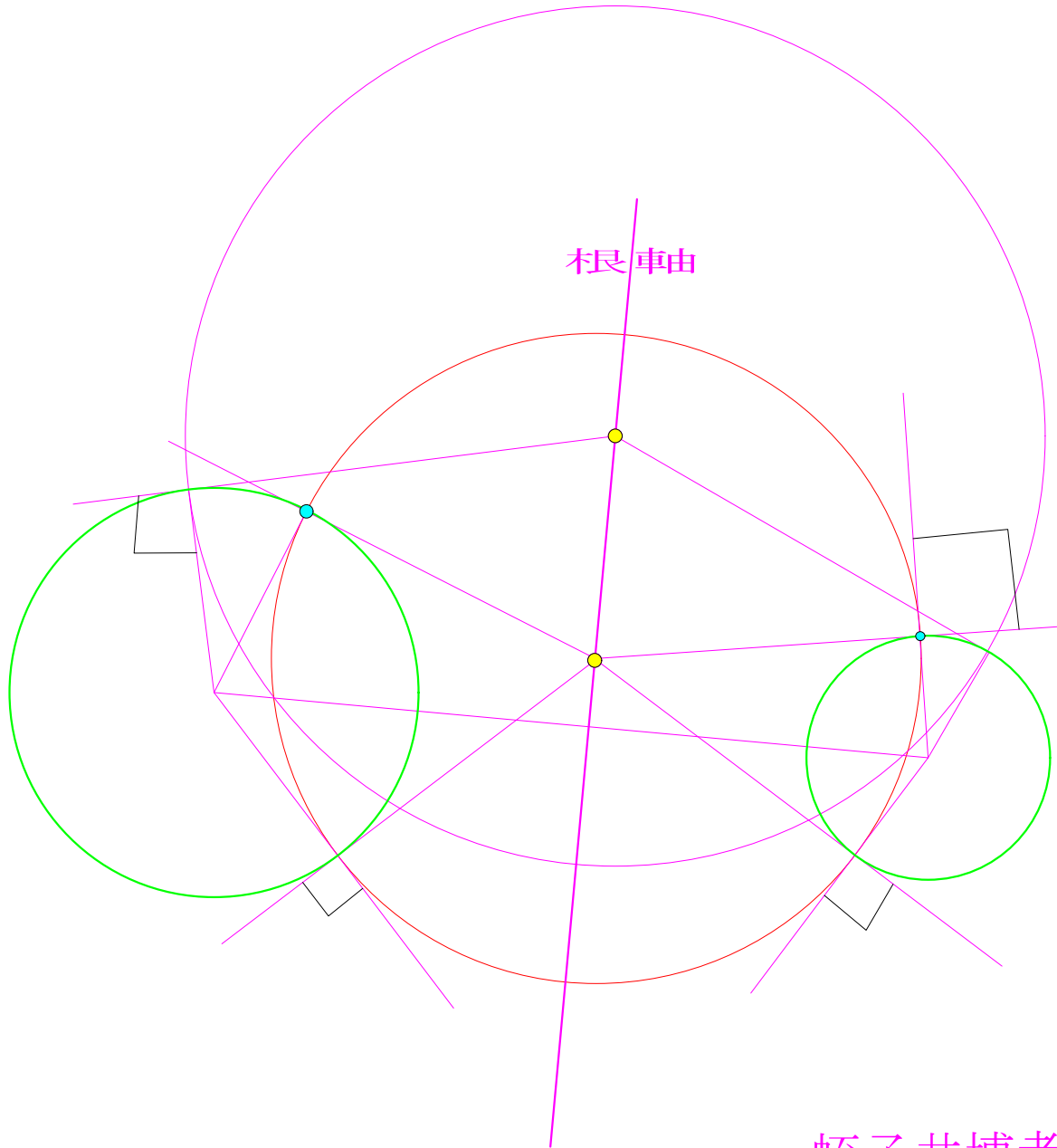
H. EBISUI

ありがとう

HeTNK-08-11

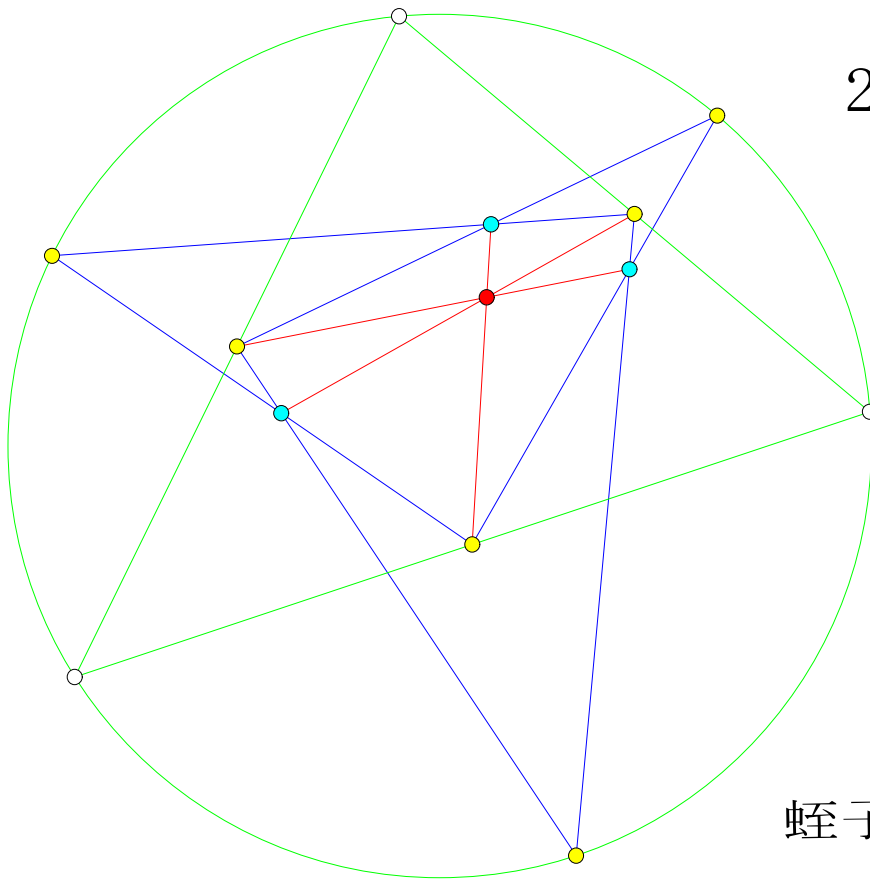
# 2円に直交する円

中心：2円の根軸上、半径：中心から円までの接線影の長さ



HeTNK-08-12

if you laugh circle ,then you must cry for circle, if line for line, if points for points, this is the truth on points line ,circle.



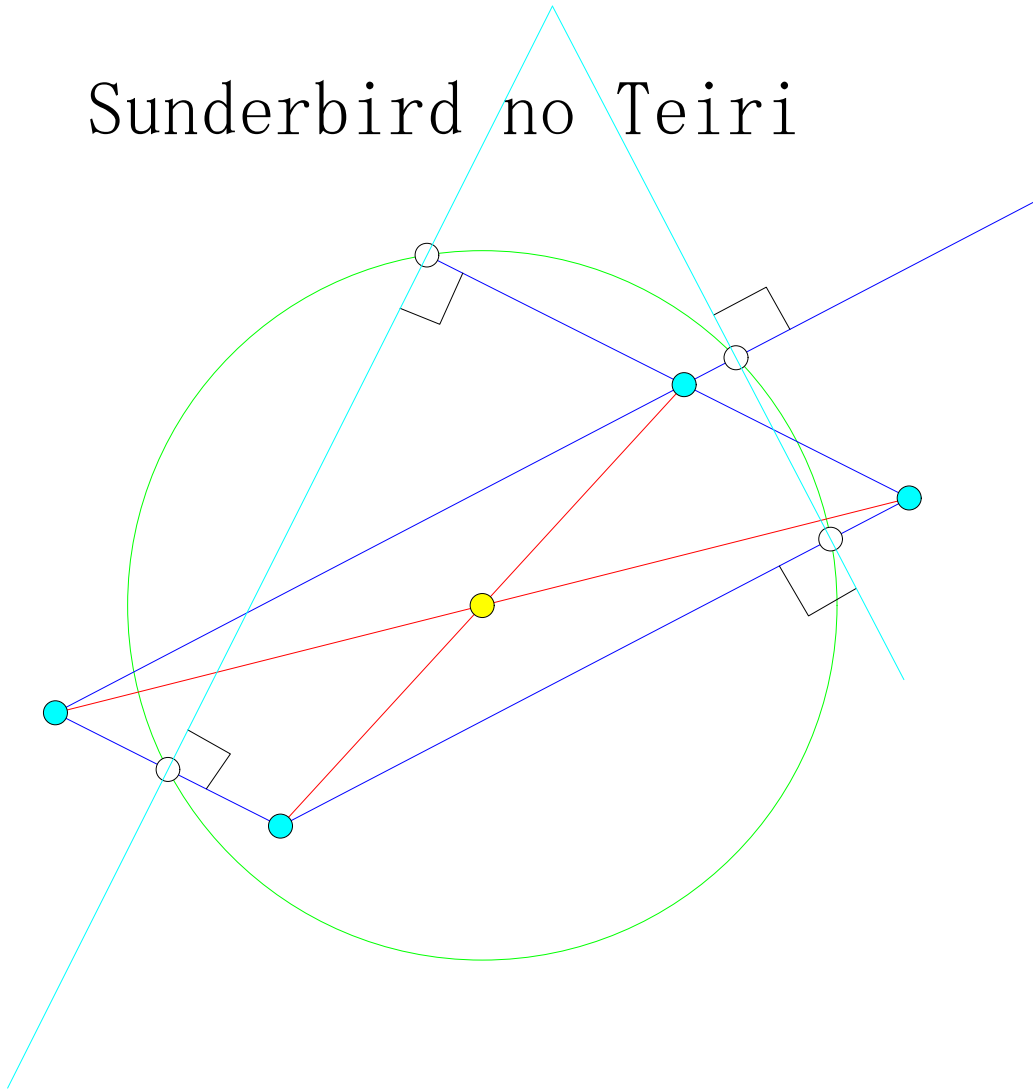
2013-3-29

蛭子井博孝

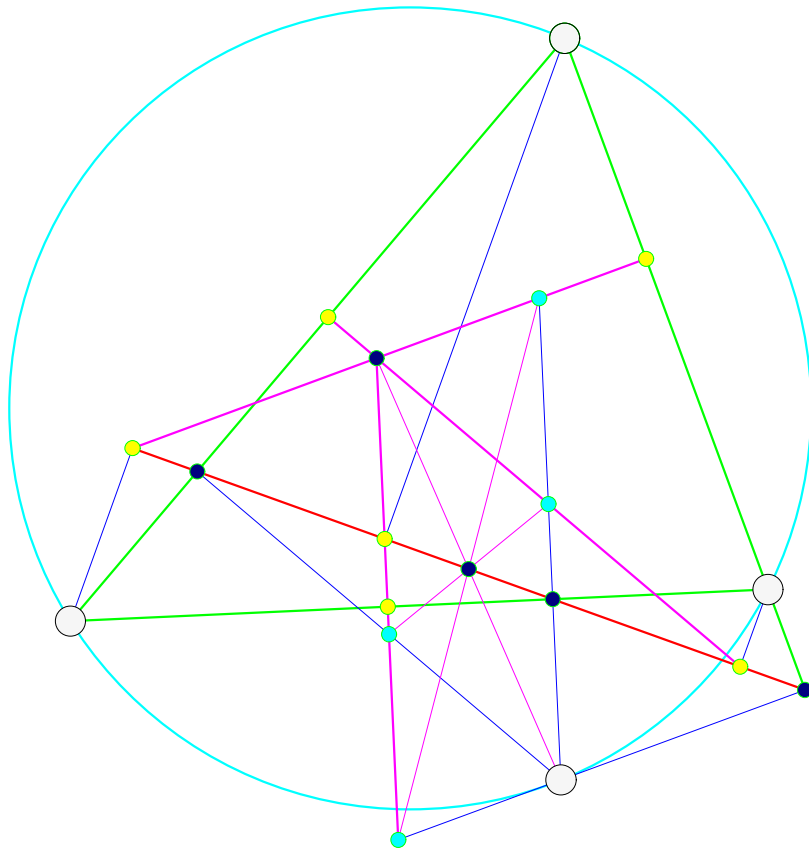


HeTNK-08-13

# Sunderbird no Teiri



HeTNK-08-14



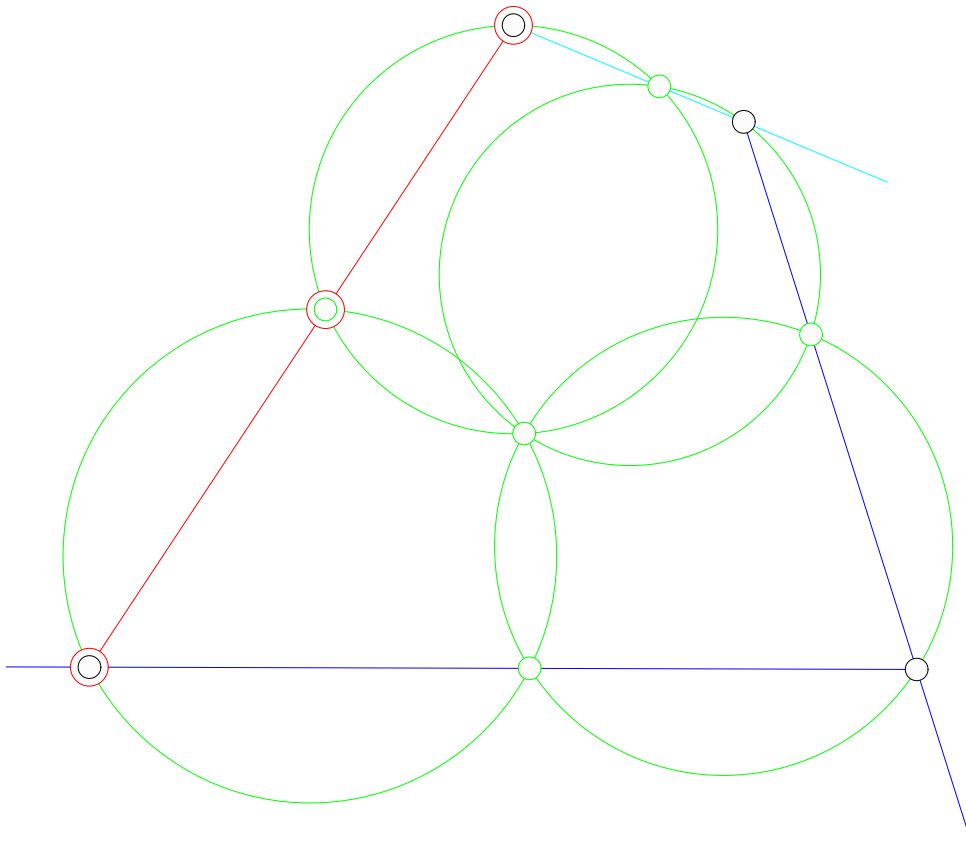
HeTNK-08-15

ICGG K-JH

IN POSTER SESSION

August 8th

# Collinear NOTE

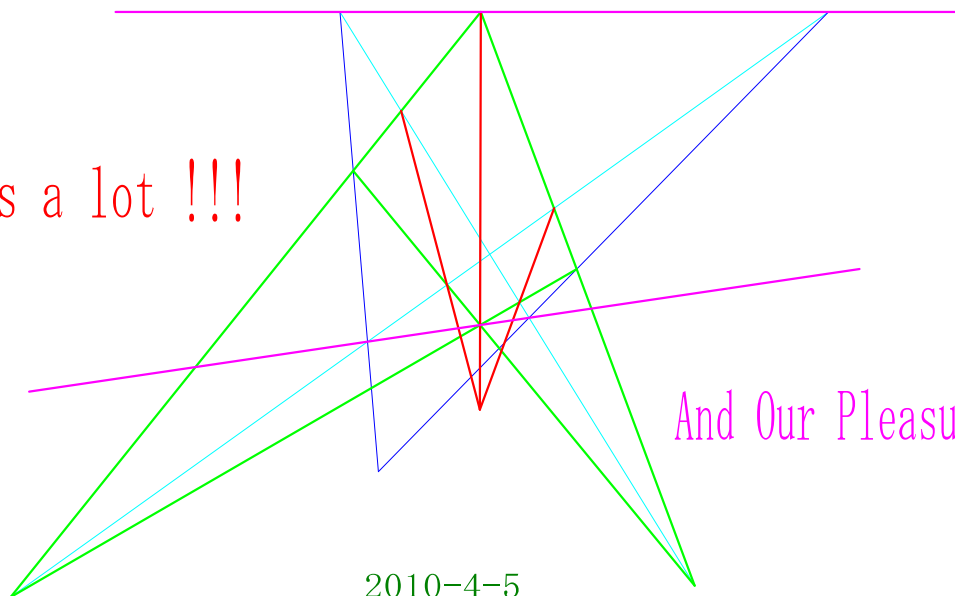


Hiroataka Ebisui

HeTNK-08-16

Concurrence and Collinear Theorem

Thanks a lot !!!



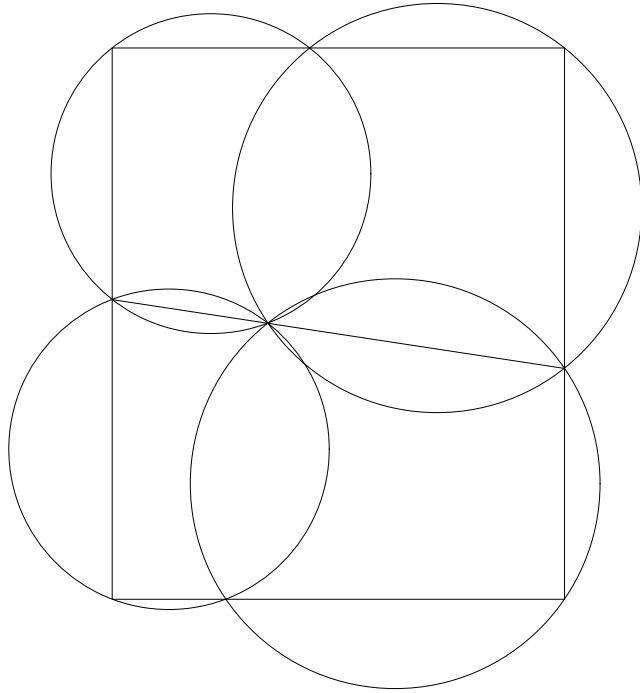
And Our Pleasure.

2010-4-5

by Hirotaka Ebisui

HeTNK-08-17

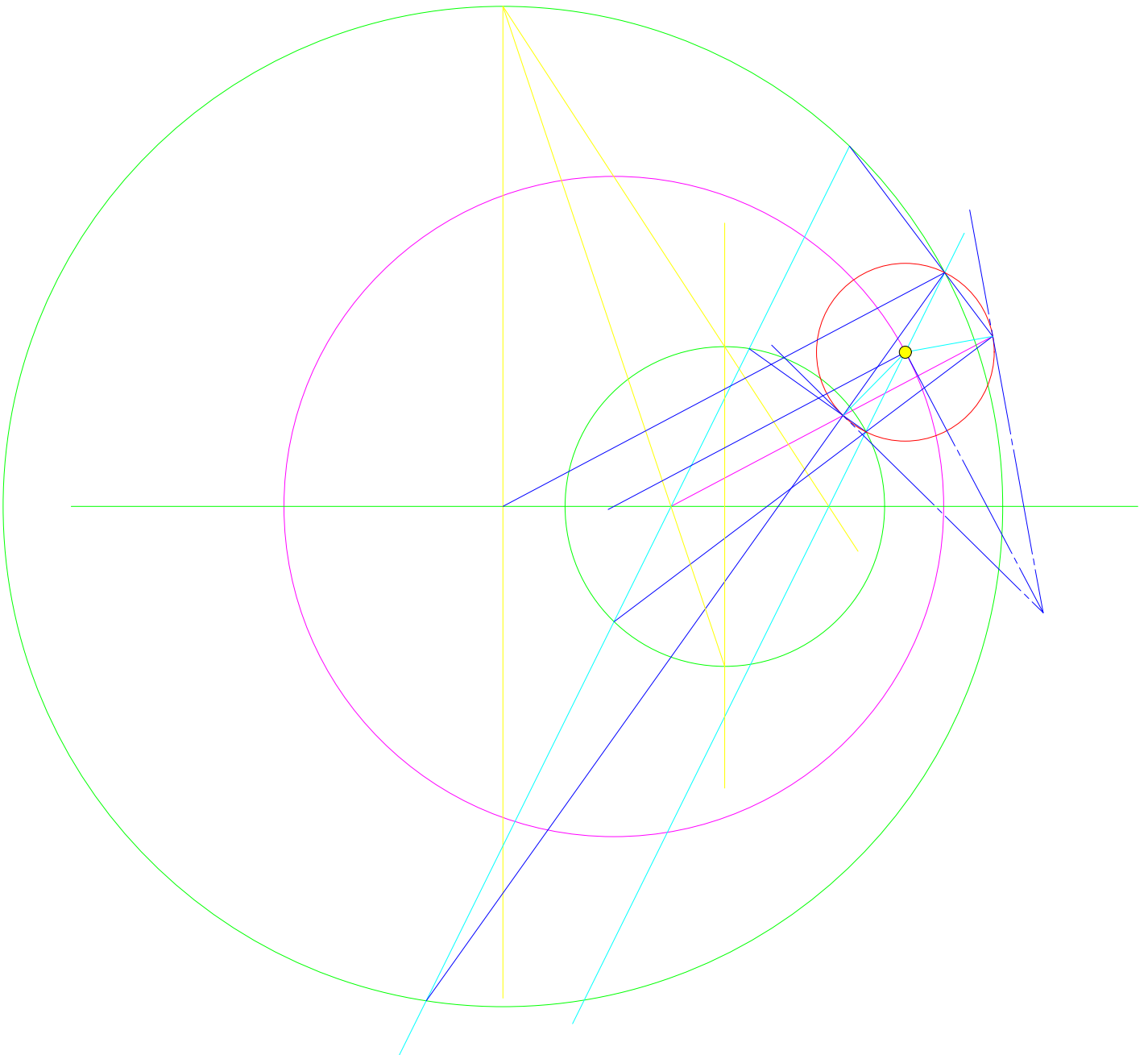
ありがとう



HEX63

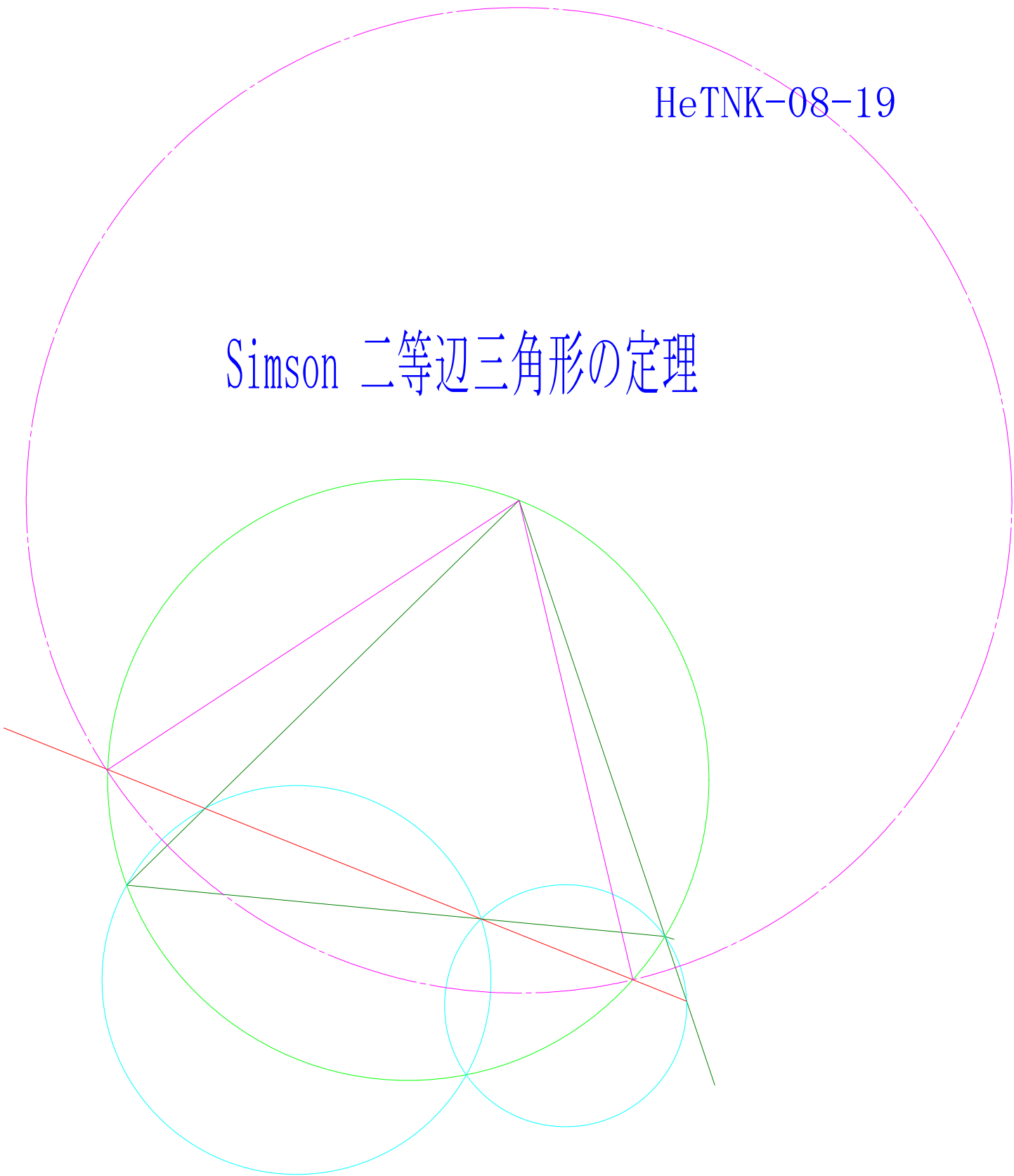
HeTNK-08-18

# Doval 接線



HeTNK-08-19

# Simson 二等辺三角形の定理

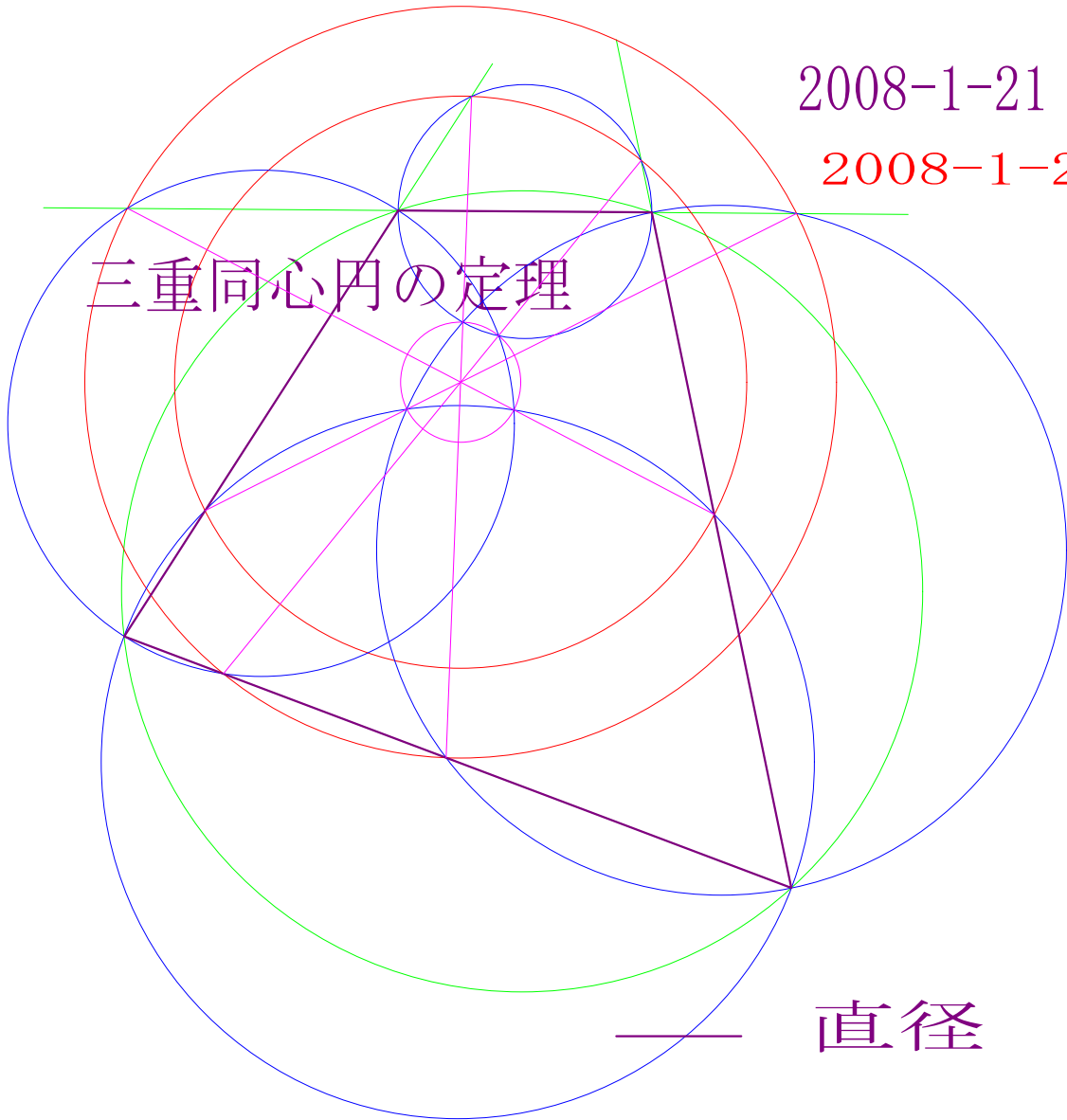


HeTNK-08-20

マゼンタの4直線は、四角形の1つの頂点に関する残りの3頂点が作る三角形のシムソン線で、同心円の中心で交わる。

2008-1-21

2008-1-22



# 三重同心円の定理

直径

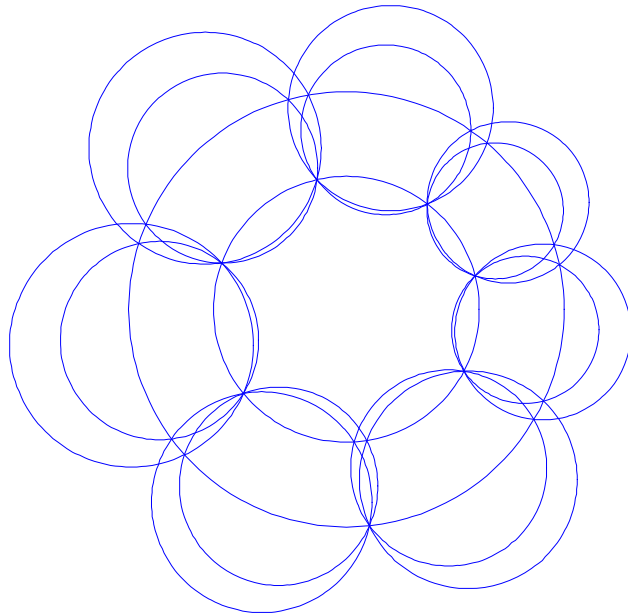
by H. EBISUI

あこがれること



ありがとう、君と僕とは同心円、交わらず離れず。思いは巡る

## 同心円7円2重連鎖定理



妹よ聞いてくれ！

蛭子井博孝

君しか居ない朝

希望に踊る朝が来た。

そう思った瞬間、事態は一変し、狂気の世界が始まった。

狂者を人体実験の材料にする医療を告発するにはどうすればいいのか。

どうすれば、異常を正常と同居させうるのか。

異常者を骨抜きにしてしまう医療は、それ自体狂気でないのか。

眠れない夜の朝を待つ時間の思いである。

やりたいことがある。定理を発見したい。

それには、コンスタントの睡眠と、薬浸けでない明晰な頭が居る。

希望に満ちた心の状態が居る。

なのに、女も抱けない異常な状況に成りつつある。

自分が悪いのか、嫌いな仕事をしない遊び人だからか。

遊び人と行っても、学問の徒であろうとしているだけだ。

それがなぜいけない。

女もできず、正常な人間であろうとすれば、神父か、牧師か、出家しかない。

然し科学の徒であるには、信仰は禁物だ。

こんな思いを誰にぶつければいいのか。

真夜中の思いをどうすればいいのか。

新しい発見をしても、誰とも分かち合えず、ただ研究できるはずがない。

学問の分かち合える人がほしい。

苦しいひとり芝居はごめんだ。

なにをすれば、仲間ができるのか。

狂気を話せば、みんなが逃げる。

しかし、思いは同じ人の幸せ。

眠れない夜のこんな思いを誰に話せばいいのか。

哀しき独言

速く朝が来い朝が来い。

いつか愛、学問の本質を語りたい。

日時を指定してください。そして場所も。

森田美由紀様

陽気な日

今日は、春らしいいい天気  
何か太陽から、慈愛のような物をもらった感じ。  
心も軽く、やる気が出てくる。  
さあ、何をしようか。  
暇人の考えること。  
みんな忙しいのに、自分は、好きなことができる。  
どんな本を読もうか。 SuperCyclide  
これをマスターしないと、  
そして Paper を読むことにする。  
英語辞書と1時間 少し読み、先が長いなあとと思う。  
貴女のように、1分読み切りと違って、  
One Sentence ずつ、味わいつつ訳していった。  
何かに夢中になって、1時間が過ぎた。  
春の日の図書館のひとつとき。  
君の、細心の注意を払い、厳しい表情や  
にこやかな表情を作りながら話す30分。  
どんな、準備を毎日しているのだろうか。  
今日も、終わりの笑顔が見たい。

恋し君、笑顔すてきな 春霞

四十路ゆく 身だしなみには 桃香る

政治にも 達者な口調で 春を斬る

花は二分 胸元三分 口八分

日常の リラックスとは ほど遠い  
政経ニュース 今日流暢

学問に いい日旅立ち 春来る

為す人と、為さざる人の 譲り合い  
近くに見える 人の優しさ

宇宙塵 集めて未来 分析す  
ゴミと要る物 いかにかに区別す

森田美由紀様

1999-3-25 6:30 AM

E b i s u i H i r o t a k a

うれしさ

君が、微笑むとき、僕はうれしい。  
美紀が、哀しいとき、僕も哀しい。  
ある晴れた朝、僕らは、出会う。  
虹の架かった草原で、僕らは出会う。  
僕は、この草原に、ひとりで、  
絵を描いているだろう。  
草原の虹、それが君の名前。  
遠くには、雪を頂いた山々。  
近くには、黄色や、紫や、  
ピンクや、白い花が咲いている。  
やがて、昼  
虹が消え、そよ風になって、  
君は、僕の頬を撫で通り過ぎる。  
優しい、清らかな君。  
いつも清潔な服を着、僕に語りかける。  
今日も、元気な君。  
憂いを見せながら、語るとき、  
それが、その記事は、愁いを帯び、  
微笑みながら、語るとき、  
そのきじは、笑みを浮かべる。  
今日は、どんな表情で、語るのだろう。  
美紀は、元気、だから、僕も元気。  
さあ、草原で、出会った君に、  
一枚の絵を送ろう。  
美紀は、虹になり、そよ風になる。  
そして、今頃は、あどけない表情で、  
すやすやと、まどろんでいるだろう。  
そのそばに、近づき、  
王子様は、そっと唇を寄せる。  
君は、きょとんとして、目覚め、  
僕は、微笑んでいる。  
僕のかわいい美紀。  
今日も、新しい一日が始まる。  
僕らは、また、それぞれの道に行く。  
新しい、微笑みと幸せを求めて。

朝  
風  
や  
小  
鳥  
囀  
る  
春  
木  
立  
  
君  
の  
居  
て  
  
雷  
遠  
し  
  
虹  
か  
か  
る  
  
道  
は  
い  
つ  
し  
か  
う

L o v e i s a s o n g .

美紀、聞いてくれ  
僕は、ひとりで考えている。  
支持関数という関数を用いて、  
卵形の曲面をいかに表すかを。  
以前送った、まりの図もその一つ、  
支持関数を変えると様々な卵形面ができる。  
その卵形面を分類できないかと  
むなしい努力をしている  
一つ、まりのできる場合は詳しくわかった。  
然し、卵形面は無限にある。  
どうすればいいのか。  
どうすれば、数学の神様が微笑んでくれるのか。  
僕は、昼となく夜となく考えようとしている。  
何か結論めいた物が出ないかと焦っている。  
君は、笑うだろう。コンピュータに向かって、  
式を入力し、図の見て、  
”これさっきの図と対して変わらないではないか”と溜息をつく。  
卵形線、卵形面に分類があるのか、どんな特徴を捕まえれば分類できるのか。  
もう2年あまり考えている。少しも進歩がない。  
むなしく時は過ぎ、コンピュータの数だけ増える。  
もう卵形面をやりだして、5台目。  
リンゴの形の違いもたくさんある、それを分類して何になるのかと  
然し、直観的に、何かあると思っている。  
むなしく、時は過ぎる。  
君を意識して早、3年余り、  
君にだけ僕の本心を語ってきた。  
花冷えのする部屋の日。  
今日も、卵形面を追いかけた、少し、  
そして暮れていく、美紀が待っているテレビの中  
その中にどんな世界があるのだろう。  
コソボの人々の悲惨さ、  
速く平和が来るといい。  
今日も、地球は回り、やがて夕暮れ、  
もう少し、雑用もやらないといけない。  
畑の草は、日に日に生長。  
春と言うのに、卵形面という、荒涼とした世界に、僕は閉じこもっている。  
君の微笑みが、そして、服を見るのが、僕の慰め、  
ああなんと老いた、少年だろう。ね、美紀ちゃん

君は、僕のハート  
然し、僕は君の何だろう  
明るい未来になるように祈る日々  
然し、難民ができ、民族は対立している。  
誰が悪いのか、そこに、ひとりの悪人が居るならば、  
その人は、処罰されるべきである。  
然し、そのひとりが、はっきりしないのだろう。  
みんなの世界、みんなの時間  
そこに、悲劇が生まれる。  
頭に、ぎりがあるように、  
地球のどこかがゆがみ悲劇が生まれている。  
こうして、家におれる幸せ、  
それを大切にしないといけない。  
そう思うが、僕も、未だ眠っている。  
世界に向け、何かを発信して居るつもりでも  
それは、寂しい Inori だけ  
この Inori が、誰かを救っているだろうか  
美由紀さん、  
君も祈ってくれ、人々の幸せを  
自分だけが、幸せでいいはずがない。  
みんなが幸せでなければ、  
ああ、なんと、かよわい Inori であろう。  
ひとりの Inori なんて、何にも成らないのか  
哀しさがこみ上げてくる。  
君が居るから、僕は幸せ。  
先日、世界で一番哀しい人に会い、  
その人と暮らそうとする話があった。  
日本より、他の国に、そんな人が居るだろう。  
悪人が、哀しい人かも知れない。  
人の幸せがわからないから。  
とりとめもなく綴ることは、もうやめねば、そう思うが、  
難民の人々を思うとき、祈らずに入られない。  
” 平和に成れと”  
新しい、幸せな世界が来て、  
みんなが、楽しい思索に耽れるように  
今日という日が、いい日でありますように！

小旅行

1999-4-16-18

朝、JRに乗り、小旅行に出た。  
目的ははっきりしない。  
筑波大の先生に会うそれが目的  
会って話をして、何かが生まれることを期待して  
然し、今回も大したことは生まれなかった  
僕は、ぶくと成り、研修センターで、ひとり、  
寂しく寝た。然し、浅い眠り  
もう、旅行は無理かな？  
そんな思いを抱かずにはおれなかった。  
つぎの朝5時頃か、食事をしようと、コンビニへ行った。  
サンドイッチとコーヒー、  
そして少し寝た。  
昨日ひとりで、風呂に入り、体重を量ると、  
1キロも増えていた。  
新幹線線で4時間もじっとしていて、おまけに、  
早く待ち合わせば場所に着き、うどんを、  
間食に食べたせいだろう。  
ぶくは、何を求めて自前で、  
こんなところまで来るのだらうと、僕は思う。  
最近、僕がぶくで、ぶくが僕のようにになっている。  
ぶくは、妄想家で、宇宙平和を夢見、超能力を、科学的に  
コントロールできないかと、夢見ている夢想家。  
ぶくは、4次元空間による、ワープや、未来の人類の生活が、  
どうあるべきかよく考える。  
僕は、理性的に、ぶくを見張って、ぶくが、暴走しないように  
押さえる役目、  
いや、ぶくと僕の違いはよくわからない。  
雑文を書くのがぶくで、論文を書くのが僕、  
この境が、最近少しなくなってきた。  
困ったことだ。  
君恋し、笑顔さわやか、春の風  
なき父の 笑顔の中の 寂しさを  
この頃とみに ぶくは覚える。  
君の居て 僕が居るよな  
この文に ぶくの哀しさ 僕は詩わむ  
花びらの 1輪浮きし 小川には  
小ブナ寂しく ひとりおよがむ  
流れゆく 君のニュースに 聞き惚れし  
いつしか君の 愛がみのらむ

19日  
みゆきさん  
風邪ひき休む  
今日の日も  
僕は、テレビに  
君を求めむ  
8時15分前に  
行きたかった会いに

君が寂しいとき僕も寂しい  
涙ながらに歩く道  
ゆくも帰るも峠を越えて  
今日も達者な母さん居たよ  
鈴虫鳴いて線香花火  
手にする君の袂が揺れる  
みんな元気で待ってる君を  
しゃべる言葉に笑みこぼれ  
明るい話題今日はないけど  
居る苦しさかたらむ君に  
四十九才今日は誕生  
君を見たくて待ってたけれど  
居ない寂しさひとり味わう  
元気を出して明日は出てよ  
綴る言葉ももどかしく  
元気な姿思いだし  
こちらも何とか暮らす毎日  
いつでもいいから  
ちやかす手紙を  
気張らすために  
書いてみなさい  
待ってるからね

740-0012

岩国市元町4丁目 12-10

蛭子井博孝

Tel 0827-22-2573

Fax 0827-22-3305

人恋し 人を抱きたし ひとり行く  
道に小さな スミレ創作

行く道と帰る道との峠かな